

北空知地域医療介護確保推進協議会 事業報告に係る説明資料

○運営会議

- ①新型コロナウイルス感染症対策研修会の開催 _____ 1
- ②北空知新型コロナウイルス感染症対策支援班（廃止）について _____ 2

○Ⅰ部会「医療介護相談・在宅生活支援部会」

- ①認知症スキルアップ研修会の開催 _____ 3～4
- ②北空知地域入退院支援研修会の開催 _____ 5～7

○Ⅱ部会「多職種連携・地域啓発部会」

- ①地域包括ケアに携わる多職種合同研修会（ケア・カフェ）の開催 _____ 8～11
- ②北空知地域医療介護連携支援センターホームページの更新 _____ 12
- ③在宅医療・介護を考える北空知地域住民フォーラムin 沼田の開催 _____ 13～16
- ④北空知地域リハビリテーション活動支援事業の概要 _____ 17～23

令和5年度新型コロナウイルス感染症対策研修会

5月26日(金)18:00~19:30 ラ・カンパーニョホテル深川

- ・目的 令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけの変更に伴い、北空知地域の社会福祉施設等における感染防止対策や感染者発生時における対応を今一度再確認することを目的とし、保健・医療・福祉・介護関係者等に対し、経験を踏まえた実践的な感染拡大防止のための情報提供を行い、感染者発生時における対応について研修の機会とする。
- ・内容 (1)情報提供「今後の北空知の施設・事業所における新型コロナウイルス感染症対策等について」
情報提供者：北海道空知総合振興局保健環境部深川地域保健室
健康推進課健康支援係長 近藤 望 さん
(2)意見交換
- ・参加者 77名 北空知地域保健・医療・福祉・介護関係者（感染症対策担当者・施設内リーダー・実働職員等）

【情報提供から】

- ・情報提供者の近藤さんから、発生から3年を経過し、5月8日から感染法上の位置づけが変更されることに伴い、現状の知見や国の方針を再確認し、今後の対応を構築していくための情報提供をいただきました。
- ・内容は、1.北空知管内の発生状況、2.新型コロナウイルス感染症の特性と感染対策の基礎知識、3.5類移行後の感染対策の考え方（参考例）の3部構成でした。
- ・第7波～第8波における北空知管内の状況は、北空知管内においても複数のクラスターが同時発生し、大規模な施設や医療機関のクラスターでは、100人以上の感染者数となった施設もあり、死亡者数も多かったこと、GHなど配置医や嘱託がいない施設において、病状悪化時の医療調整が困難だった。職員の感染率が高く、対策期間が長期化した施設では、施設運営継続に苦慮されていた。
- ・最も重要なことは標準予防策の徹底（手指衛生、PPEの選択、呼吸器衛生、環境整備など）
- ・まとめとして、・感染症にも対応しうる地域包括ケアシステムの再構築、・感染症も含めた医療連携・入退院調整の円滑化、・健康危機発生時の応援・受援体制強化（→平常時の体制整備が重要、→施設・医療機関を孤立させないサポート体制や日頃のネットワークづくり）などが必要。

【アンケート回答から】

- ・他施設の面会の考え方がとても参考になりました。
 - 職員が感染した場合の仕事のやりくりの大変さ各施設、大変だという事もわかり少し安心しました
 - ・クラスターを経験している事業所としていない事業所の差がここにきて大きなものになってきていると感じました
 - ・个人防护服を着る習慣、時間がたつと忘れてしまうので定期的に行い意識づけが必要と思いました
 - ・認知症の方への対応、声のかけ方、根気強く関わっていくことの大切さ、スタッフ間での共通意識を持つことの大切さを改めて学ぶことができた
 - ・だんだん慣れが出てくるので時々こういうセミナーに参加し考えたいけるような研修があれば参加したいと思います
 - ・コロナウイルス以外の感染症対応について知識を深めたい
 - ・5類に移行したばかりだが、今後コロナの状況で新たに現えてくる課題など共有してほしい
 - ・各施設の方と交流でき、とても意義のある時間を過ごすことができました。この様な場を企画して頂きありがとうございます
- などの回答が寄せられました。

北空知4町介護福祉施設担当課長 様

北空知地域医療介護確保推進協議会運営会議
座 長 黒 田 隆 之
(深川市市民福祉部高齢者支援課)

北空知新型コロナウイルス感染症対策支援班（廃止）について

初冬の候、貴職におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

令和2年1月新型コロナウイルス感染症の発生当時より多大なご尽力をいただき厚く御礼申し上げます。
当初、患者対策から始まり、様々な対策を講じながら3年以上経過し、本年5月8日から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが変更となりましたので、北空知地域医療介護確保推進協議会に設置した「北空知新型コロナウイルス感染症対策支援班」は、法の位置づけ変更及び所期の設置目的※1を達成したものと関係機関で協議※2の上判断し、本通知をもちまして廃止いたします。
なお、今後下記のとおりで相談対応等を継続しますので、各事業所等への周知及び、お手数ですが障がい者担当課の方にも説明、転送していただきますようお願いいたします。

また、不明な点等がありましたら下記までご連絡をお願いいたします。

記

○感染症に関する情報提供・相談

＜情報提供・相談＞

ア 深川保健所の感染症に関する相談対応は今後も継続。

イ 深川市立病院感染症認定看護師の齋藤氏へ平常時から電話相談、状況に応じて派遣による指導相談も可能ですので、直接深川市立病院医療安全管理室（0164-22-1101）へご相談ください。

ウ 社会福祉法人揺籃会では、感染が発生した場合、状況に応じて現場への派遣・助言支援を行っていますので、法人本部（0164-34-5635）へご相談ください。

＜その他＞

令和5年5月26日に開催した「新型コロナウイルス感染症対策研修会」においての質問事項を令和5年9月にまとめたものを情報提供しますので、感染症対策の参考にしてください。

※1 設置目的

北空知管内の高齢者等施設における新型コロナウイルス感染症予防対策や、小規模患者クラスター（集団）が発生するなど早急に感染拡大防止対策を講じる必要が生じた場合において、感染症対策に係る専門家の派遣や、専門家等の下で現場での活動を行うための情報共有や意見交換等を行うことにより、感染拡大の防止を図ること

※2 関係機関での協議経過

- ・R5.8.1第3回 北空知新型コロナウイルス感染症対策連絡会議プロジェクトチーム会議
- ・R5.10.31第2回 北空知地域医療介護確保推進協議会 運営会議（北空知新型コロナウイルス感染症対策連絡会議）

認知症スキルアップ研修会 開催結果

～認知症ケアに関わる取り組みについて学ぼう～

項目	内 容
1 目 的	認知症ケアに関わる取り組みについて学び、認知症ケアに関わる専門職が日頃の困難事例への対応について情報共有し検討する機会とする
3 日 時	令和6年2月16日（金） 10:00～11:30
4 場 所	オンライン開催（ZOOM） ※当初は市立病院2階会議室であったが、院内の感染症拡大状況から変更した
5 内 容	開会・挨拶 在宅生活支援小部会長 梅澤 健志 （1）講演「認知症認定看護師の役割について」 講師 深川市立病院 認知症認定看護師 前川凡子（約15分） （2）意見交換会 ・困難事例：参加者から事前に集約 閉会
6 出席者	北空知1市4町地域包括支援センター職員（6名） 医療介護相談・在宅生活支援部会委員（在宅生活支援小部会）（8名）、 地域リハビリテーション活動支援事業担当者（深川市立病院作業療法士）（1名） その他（1名） 計16名
7 結 果	（1）講演内容 ○前川看護師から、認知症認定看護師の役割や実際の活動内容などについて以下のとおり説明がありました。 ・認知症認定看護師役割は実践、指導、相談の三つが。これらを実施し現場のリーダーとして病院施設、地域全体の看護の質を高めることが求められている。 ・実践は、患者家族に対し専門知識に基づき適切看護を判断し実践する。患者の隠れたニーズを読み取り的確なケアを行い、周辺症状を予防緩和する。医療現場の整備を行い、事故や症状悪化を防止する ・指導は、他の看護師に対し水準の高いケアを行えるよう専門知識や看護技術などでサポート。実践を通した多様な症状、具体的対応方法、ノウハウ指導。勉強会や研修会開催、看護活動のマニュアルの整備 ・相談は、患者、家族、看護師に対し問題や疑問などを相談し改善策を支援。中心症状などで看護に困窮している家族へのケアやアドバイス、ケア方法に問題を抱える看護師や他職種のアドバイス ・実際の活動は主に病院での活動が中心。身体拘束をしないケアを心がけ、ルート類を触る原因を探り対応している。日常生活・治療のサポート、BPSD（行動・心理症状）の対応、せん妄の発症予防・早期離床・重症化予防などのケアに重点 ・術後ケアでは、入院・手術していることが理解できなくなる患者が多いので、その原因を追求してケア。家族支援として、入院前の生活と現在の生活の変化をアセスメントし、支援を行っている ・指導では、院内学習会、新人学習会、看護学生への講義、認知症看護委員会での活動、市民講座などを行っている ・相談は主に看護師や医師からの相談が中心で、BPSD への対応や薬剤の検討、リスクの高い患者への対応方法などの相談を受けている ・今後は、認知症患者や家族、他職種との連携がより重要になると考えられ、共生社会の実現に向け連携を深めながら活動していく必要がある （2）意見交換会 ○各市町から下記の相談内容が予め情報提供され、認定看護師からそれぞれの対応について専門的な立場から助言がありました。

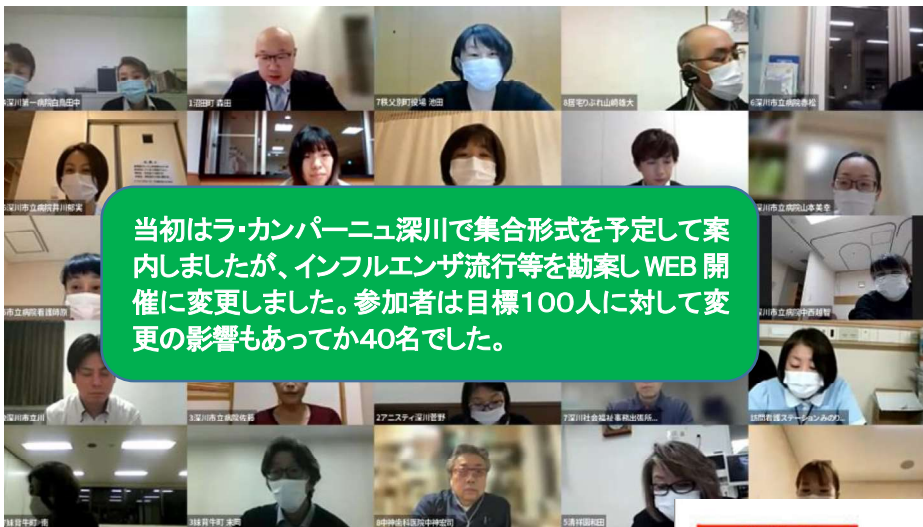
	【深川市】 ・認知症状があるにもかかわらず、受診につながらないケースや、本人は困っていないが、家族や近所等が困っているケース（深川市） 【妹背牛町】 ・専門外来受診につなげるまでに苦労する、本人の説得（上手な誘い方）、家族への勧め（病院選び等）、遠方家族や隣近所等の理解と協力、施設等転居の説得 ・病院の選び方、受診後のフォロー、「年相応」等と言われ妙に自信がきサービス等に繋がらない ・独居や認知介護状態の高齢夫婦世帯の在宅支援 ・サービス拒否、精神・行動障害、汚部屋、失禁 【北竜】 ・自宅では穏やかでもデイサービスを促すと怒りだす。入院時帰宅願望、夫婦二人世帯、息子は遠方。見守り中心の支援だがサービス拒否が強くどのような支援ができるか ・独居女性。30分後に同じ事を話すなど物忘れ多いが自覚あり。友人関係良好で失敗あってもトラブルには発展していなく周囲のサポートあり、生活できているが、今のうちにできる支援はあるか
8 まとめ	○講演から認知症認定看護師の役割や実際に行っている内容について分かりやすく説明があった ○個別のケースについてもそれぞれ専門的な立場からアドバイスがあり、参加者は普段の業務に活かすために情報収集をすることができた。また、担当者がお互いの事例について情報交換する場となった ○アンケート結果から、参考になった、お互い苦慮していることに共感しモチベーションが上がった、自分だけでは思いつかないアプローチ方法が見つかる、などの意見があり有意義な研修となった ○今後は地域での個別のケース対応での相談や研修の講話に参画することも可能であることのアナウンスがあった



令和5年度 北空知地域入退院支援研修会の開催報告

～療養が必要な住民を支援する支援者の力量アップのために～

- ・令和5年12月14日（木）18:00～19:33
- ・ZOOMによるオンライン開催
- ・参加者 40名（歯科医師1名、看護師15名、保健師5名、介護支援専門員7名、MSW・SW・相談員3名、精神保健福祉士1名、社会福祉士3名、管理栄養士1名、作業療法士1名、薬剤師1名、行政職2名）
- ・研修目的 医療関係者と地域支援関係者が連携して入退院支援を進めていく関係を築く
- ・研修目標 ①支援関係者が、本人や家庭の思いに添った入退院支援ができるようになる
②医療関係者と地域支援関係者が、情報を共有し同じ目標で支援ができるようになる



当初はラ・カンパニニュー深川で集合形式を予定して案内しましたが、インフルエンザ流行等を勘案しWEB開催に変更しました。参加者は目標100人に対して変更の影響もあってか40名でした。

森田小部会長の開会挨拶でスタート



北空知地域入退院支援・調整ルール 《実施要領》

令和3年12月

救急あんしんカード

この情報は、医療のために救急車と搬送先医療機関との連携、介護保険サービスのために、入院先医療機関と介護支援専門員等との連携に活用します。

（署名）

試行を経て令和3年12月から本格運用となったもの。
救急あんしんカード様式なども含まれています

氏名	職名	診療科及び担当名	電話
森田 小部	会長		
沼田 森田	事務局		

社外秘 担当ケアマネ 鈴木 八郎

◆利用者基本情報 要支援 1

氏名 A 姓 姓

住所 ふもろほめ町

身体障害者手帳 種 種

利用者情報 保険者名 被保険者 種 種

保険者NO 公費負担者番号 公費負担者番号

緊急連絡先 家族1 続柄 長女 名前 名前 電話 電話

家族2 続柄 名前 名前 電話 電話

家族3 続柄 名前 名前 電話 電話

主治医1 診療機関名称 科 Doctor 電話 00-0000

患者氏名 Aさん 年齢 83歳 性別 男 女

住所 ふもろほめ町 電話 00-0000

住環境（施設も含む） ■ 戸建て □ 集合住宅 □ 介護施設 □ エレベーター 有（無）

入院時の要介護度 □ 要支援（1） □ 要介護（1） □ 申請中 □ 未申請

利用している介護保険サービスの内容と回数 利用している介護保険サービスの内容と回数

医学的管理的状況 認知症状 □ あり ■ なし

認知症状の有無等 出現頻度 □ 毎日 □ 時々 □ ほとんどない □ その他

対応方法 □ 対応あり □ 対応なし

生活リズム・日課・趣味 カラオケ

その他対応で注意が必要な事項

2. 家族の情報について

研修の前段に入退院支援ルールについて秩父別町池田さんから説明がありました

総合司会はライフマップ高橋さんです
時間配分を考えて進行していただきました



事例説明は昨年に引き続き
深川市高齢者支援課
小鍛冶さん



GW は各4~5人、10グループで実施しました

- | | |
|----------------------------|-------|
| ● 1ファシリテーション看護ステーションみのり 奥田 | ルーム 1 |
| ● 1市立病院 看護師 廣瀬 | ルーム 1 |
| ● 1沼田町 森田 | ルーム 1 |
| ● 1深川市立病院 地域連携 | ル ム 1 |
| ● 2アニスティ深川 菅野 | ルーム 2 |
| ● 2ファシリ北竜町 大平 | ルーム 2 |
| ● 2深川市 立川 | ルーム 2 |
| ● 2深川市立病院 中西 越智 | ルーム 2 |
| ● 3ファシリ深川保健所 榎井 | ルーム 3 |
| ● 3妹背牛町 末岡 | ルーム 3 |
| ● 3東ヶ丘病院 一ノ瀬幸江 | ルーム 3 |
| ● 3深川市立病院 佐藤 | ルーム 3 |
| ● 4ファシリ連携室 尾中 | ルーム 4 |

今回は集合形式を予定していましたがインフルエンザ流行を勘案しWEB 開催に…。
※H30 第2 回の様子



それでも画面をととして検討し合うことができました



当日配布資料 3

地域の実情に応じた在宅医療・介護連携を推進するための多職種研修プログラム
シナリオ（検討事例）

<事例名>
腰椎圧迫骨折で入院し、在宅復帰予定の患者への支援
<事例概要>

前回に引き続き架空の事例を設定し、必要な支援を想像しながら話し合いました

要介護1、一人暮らし、無職。糖尿病、変形性膝関節症で通院。2週間程前に重い物を持った際に腰痛発生。受診の結果第1腰椎圧迫骨折の診断を受ける。独居で生活に支障があり、入院となった。腰痛と膝痛は持続。2週間程度で退院の方向となっている。
糖尿病で、HbA1c 7.0台。インシュリン注射中。
本人は「退院して自宅で過ごしたいが、痛みもあるので、家での生活に不安もある。お友達にカラオケに誘われているからまた行きたいけど・・・。」と言っている。
【ADL】
移動：病棟内は歩行器を使用。つかまっていれば立位保持も可。右膝は可動制限あり、屈曲できず。
着衣：自立だが、腰を伸ばしたりする際に痛みあり。
食事：自立。 排泄：トイレで排泄可。
入浴：背部の洗身に一部介助。
買い物：市内在住の娘が行っていた。
掃除：週1回ヘルパー利用して支援を受けていた。
金銭管理：自立。
食事の準備・長時間の立位は困難 家での調理は可

アンケートから(看護職)

- ・病棟看護師とケアマネージャー、社会福祉士の方とは必要な情報が共通しているものはありますが、意外とそれぞれで異なる情報が必要とされていることがわかりました。
 - ・グループワークの課題意図が個人的に理解するのが難しく、的確に意見出せませんでした。
 - ・このような状況でなければ、集合研修で話し合いをしたかったなと思いました。
- とても有意義な研修でした、また機会があれば参加したいと思います。

アンケートから(ケアマネほか職)

- ・利用者様、ご家族の意向を正確に理解、把握していないと、それに寄り添った支援ができないこと、また、在宅時の生活を見ていないと、病院にも良い情報を伝えられないため、必要な支援につながらない。また、病院側からも、自宅で留意が必要なことを詳しく伝えることも大事
- ・多職種で一つの事例について検討することは、その職種が知りたいことを聞けるので、今回も大変勉強になりました。

家族の思いなどを連携室が中心となり、ケアマネ、病棟に情報を伝えるなどの連携が大事

今後もし精神疾患が出てくるようであれば精神科訪問看護も使えるという情報交換ができた



リハ職に自宅を見てもらい、福祉用具や住宅改修のアドバイスを受けて帰宅後の不安を解消

家族の協力を得て自宅の写真を撮ってもらい不足分の情報提供をすることも必要



最後は再び森田小部会長から、今日の研修を普段の業務に生かしていただけないようお願いし閉会挨拶。

全体共有でのグループ発表・メモから

○グループワーク 1 【退院へ向ける時期】【退院の見込みがいたら】退院に向けた情報共有について

- ・ 普段は仕事で忙しいご家族が、どの程度、支援ができるのか（家族の介護力・量）
- ・ インシュリン自己注射ができない場合の支援についても予め検討していく。
- ・ 退院後、住宅改修等も視野に生活環境を整える必要があるのでは。
- ・ 連携室と居宅ケアマネが情報共有し、家族・本人にも意見を聞きながら退院に向けどのような支援が必要か地域資源やサービスをすり合わせすることが大事
- ・ 食事形態だけでなく噛み合わせとか入れ歯などの情報共有も必要
- ・ 例えば趣味や本人が大事にしていること等の情報があると、退院に向けての目標のきっかけとして話を進められるので大事にしてくとよい
- ・ 住宅改修は、大工の日程調整で工期がかかる場合がある。期間を考慮し対応していくことが必要

○グループワーク 2

支援関係者が、本人や家族の思いに添った支援できるよう検討できたか

- ・ 病院は医療面に強いが、本人の好きなこと楽しみ等の情報があればもっと良い
- ・ サービス利用は費用がかかるので、家族・本人の金銭的な状況も踏まえながら検討が必要

医療・地域支援関係者が情報を共有し同じ目標で支援できるよう検討できたか

- ・ 病院家族の面会が少なくなったことから、話を聞く機会が少なくなった。外泊を行うことで、実際の状況が見ることができ、本当の姿が見られる機会が大事である
- ・ 退院までの日数から逆算してどのような支援が必要か検討し、支援体制が整うまでの期間は入院が必要か調整

調整ルール（様式3）から得られた情報は適切だったか。過不足はなかったか

- ・ 「トロミをつける」との記入だけではダメだと気付いた
- ・ 今までの暮らし方や病歴以外、人物像等が情報としてあれば、病院側はその人らしい退院支援を検討しやすい

地域包括ケアに携わる多職種合同研修会

～ 「顔の見える関係」から「多職種協働」、そして「チーム北空知」へ ～

「第1回ケア・カフェきたそらち

弁護士さんに聞く！身寄りのない方の支援 開催報告

- ・ 日 時 令和5年11月15日（水）18:00～19:58
- ・ 開催方法 オンライン（ZOOM）
- ・ 主 催 北空知地域医療介護確保推進協議会
- ・ 参加者 60名（事前申込者55名 欠席2名 追加申込7名）
 （市町別：深川市39名、妹背牛町5名、秩父別町3名、北竜町5名、沼田町8名）
 （職種別：医師7名、歯科医師2名、弁護士1名、薬剤師1名、看護職14名、保健師13名、その他医療職3名、介護支援専門員5名、介護福祉士1名、社会福祉士4名、ソーシャルワーカー2名、相談員3名、管理者2名、行政職2名）
- ・ 目 的 北空知における地域包括ケアシステムの構築を目指して、地域の保健・医療・介護・福祉の関係機関・施設・事業所等において、患者や利用者、地域住民の支援に携わる多職種の関係職員が一堂に会することが困難な状況にあっても、互いの役割を確認・共有し、切れ目のない支援・サービスが提供される多職種連携の関係作りを構築する。

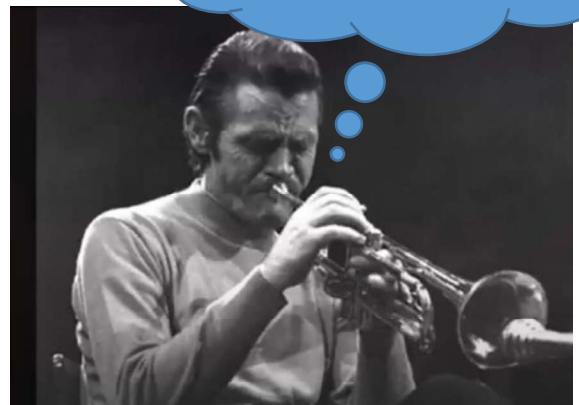


令和5年度初めてのケアカフェでした。新型コロナウイルスも今年の5月8日以降5類に移行し、集合でのケアカフェも検討しましたが、参加者に医療関係者も多く、集団での感染のリスクも考えオンライン（Zoom）での開催を選択しました。

多職種合同研修企画小部会
神薮小部会長が司会を行いました。



バックミュージックで話
しやすいカフェの雰囲気
は演出できたかな？





開会挨拶は、
深川市市民福祉部高齢者支援課の
黒田隆之課長です。

深川総合法律事務所 弁護士
石井 洋文さんから、
「弁護士さんに聞く！身寄りのない方の支援」
として話題提供



1 自己紹介



- ・大阪府出身（20台後半まで）
- ・旭川に2年、深川には10年弱居住
- ・取扱いの主要分野は相続、後見、交通事故。
（三つだけで受任事件の7割位。）
- 弁護士会の高齢者関係の委員会に所属

○令和5年度第1回研修会は、身寄りのない方の支援を題材として、従前に引き続きオンラインで開催しました。

○話題提供は、深川総合法律事務所 弁護士 石井洋文さんから、成年後見制度、財産管理契約、死後事務委任契約、遺言書作成など、身寄りのない方の支援に対して必要と思われる情報などをわかりやすく説明・紹介していただきました。

- ・65歳以上の人口の中で一人暮らしの人が占める割合
R2年 男性15.0% 女性22.1%（令和5年高齢者白書より）
身寄りのない方の割合は今後も増加していくと思われる。
- ・身寄りのない方の不安は、財産管理、身元保証人、死後事務に関する不安がある。
- ・身寄りのない方の支援として判断能力がない方は、成年後見制度、判断能力がある方は、任意後見制度、財産管理契約、見守り契約などある。
- ・判断能力がある身寄りのない方については、①財産管理契約締結 ②遺言書作成 ③死後事務委任契約の締結により、死亡時対応の不安を払拭できる。
- ・医療同意に関しては、原則本人しか同意権を持っていない。事例としては財産管理契約を結び、身寄りのない方に関しては、医師からの重要な説明を弁護士が受け、説明を受けたという趣旨で同意書に署名、捺印を行ったことがあるが、この方法が正解といえるものとも言い切れない。
- ・医療行為に関しては、判断能力があるうちに、本人に治療方針、延命処置などについて書面に残しておいてもらうことが重要。
- ・第三者が行う死後事務は、本人が困らないよう最低限のことはできるが、細かいニーズにこたえることまでは難しい気がする。
- ・契約を行うにあたって、信頼関係の構築が困難な方については引き受けが難しい。例として嘘をつく人、暴力をふるう人、犯罪行為を行う人、無理難題を要求する人など。

2 身寄りの無い方の増加

65歳以上人口の中で一人暮らしの人が占める割合
令和2年 男性 15.0% 女性 22.1%
（令和4年高齢者白書より）
→ 今後、この割合はより増加し、身寄りのない方の割合も今後増加していくと思われる。



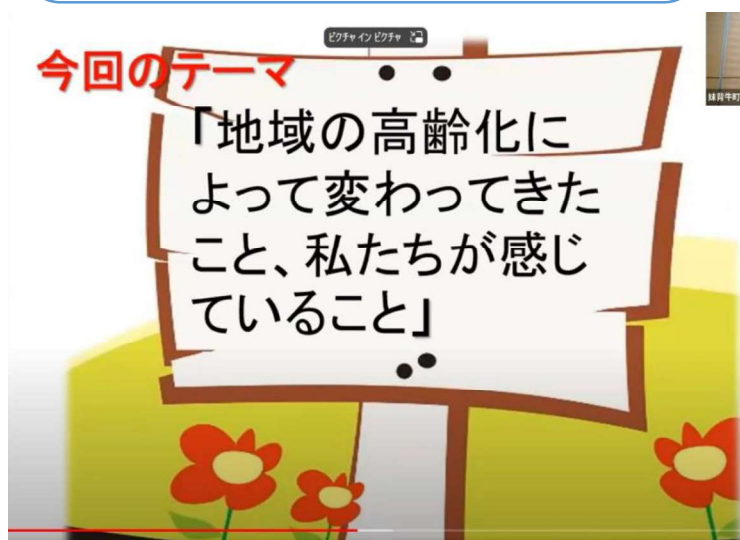
3 身寄りのない方の不安

- ① 財産管理が出来なくなったときに自分に代わって対応してくれる人がいない。
 - ② 身元保証人が確保できず、施設入所・入院に支障が生じる。
 - ③ 死後の財産の処理や火葬納骨など死後の事務処理をする人がいない。
- ※これらは一例です。





今回のカフェマスターは妹背牛町健康福祉課地域包括支援グループの末岡さんが担当していただきました。
ありがとうございました<m(_)_m>

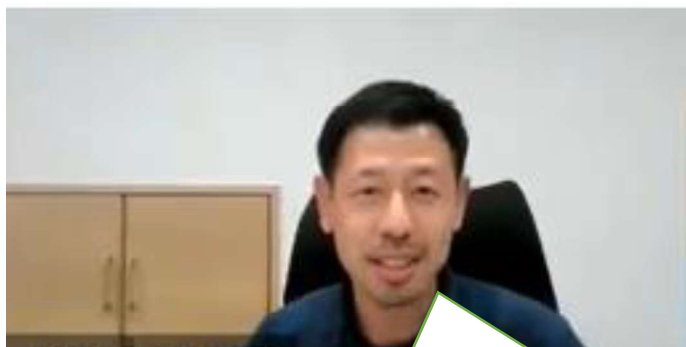


～アンケートから～

- ・話題提供がとても勉強になりました。30分では短かった。
- ・身寄りのない方と時々関わるがありますが、今回のお話を聞いて、身寄りのない方々、施設はどんなところに不安や問題があるのかを知ることができました。そういった身寄りのない方々も事例を通して様々な対応があることを知ることができました。
- ・地域で活動している医療・介護以外の方の話を知る機会はなかなかないので、貴重な研修会になっていると思う。ケアカフェの話題提供がきっかけで町で講演会を依頼することもあり、地域に広めることもできている。今後も地域で活動している方の話を聞き、日常の仕事につなげていきたいと考えています。意見交換とあわせて行くと、話題提供者の方の話が短くなるのが残念なところ。

Chat1・2では4～5人のグループに分割しました。
今回、名前の前に数字を付けランダムに割り振られるようにしましたが、前回に続き同じ方と一緒にのグループになる方は何名かいらっしゃったようです(;'▽')

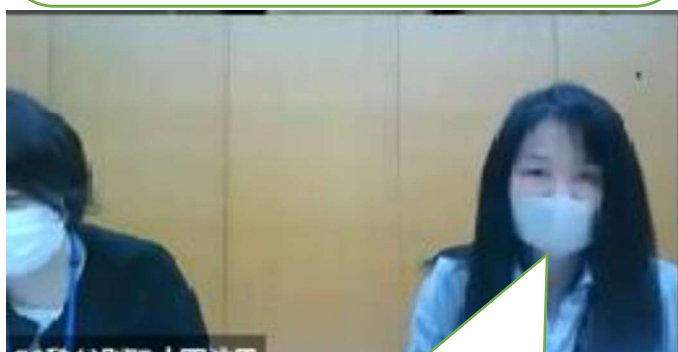




グループワークで、ケアする側の高齢化に加え、医療、介護、福祉以外の業者の方の高齢化も進んでおり、メンバーでサービスの不足といった今後の課題を共有することができました。

訪問看護ステーションいしずえ深川

足田さん



グループワークで高齢者が増えているというのは皆さん同じような気持ちで、人手不足は共通の課題でどういったら人材確保ができるかなど話し合えました。

秩父別町 太田さん

閉会挨拶で、中神歯科医院の中神先生から、「ケアカフェは敷居が低く、ゆるい感じで、お茶を飲んで話をしていたらためになる知識がつくためお得なイベントです。」との挨拶がありました



～グループワークから～

- ・身寄りのない方の支援というテーマについて学べるだけでなく、多くの専門職の方とのグループワークを通して深川市の現状や施設の状況などを楽しみながら知ることができ、とても良かったです。
- ・近隣地域・多職種・他施設の現状や取組みを知ることができました。高齢者が増えている中、買い物や病院受診などの交通がないことなど同じような悩みを抱えていることもわかりました。
- ・身元引受人について、石井先生の講話がためになったことと、グループで高齢化に伴う地域の課題について話し合うことができて良かったです。

～参加者の声から～

- ・成年後見制度の話では、弁護士さんの幅広い支援についても理解でき大変勉強になりました。北空知の高齢化事情も様々な意見があり、今後も何かの形で貢献したいと感じました。
- ・弁護士さんの話を聞く機会がありませんので、興味深く聞きました。弁護士さんの役割も多岐にわたっていると感じました。グループワークのテーマはもう少し具体的になると話しやすかったかもしれません。テーマとしては面白いし、いろいろな意見が聞けて良かった。なかなかそのテーマに沿っての話題が考えられなくて、皆さんにたすけていただきました。
- ・(今後聞いてみたい話)
改めて石井弁護士の話、入院治療から退院・自宅支援に向けた取り組みと成功事例、在宅での看取り、施設での看取り、精神科医の話、家族会議、ACPの進め方、地域の取り組み、町おこし協力隊の話、高齢者移動問題、免許返納、行政書士、司法書士の話、身寄りがなくてお金もない方の支援について等



「医療の介助が必要になってお住み恐れに自宅や地域で自分らしく暮らしたい。」

—その思いをかなため、支援を行いま

[illegible]

延壽牛町

株式会社 株式会社

北高町

お知らせ：ニッポンス

2020年10月31日 星期日
《中国社会科学报》第3751期(总第3751期) 今日出版

2023年10月03日 星期日 在杭無題，分發給各友友小站的秋風集卷之一，請各同好們：諸君

2023年 09月05日 星期日 臺灣日報 第001版 第001頁

2023年09月05日 星期一 余計な心配はしない、安心して生活してください。

2023年09月05日 星期三 在案整理、外匯登記及支付證的填報(第2次) 王品怡(會計)

2023年05月05日(火曜) 全日本学生選手権大会(男子)の開催数

「僕が職業の士として一歩進んだら、それは何者か？」
「それは、この世に存在するすべてのものに、
2023年05月05日

2023+09=05月 星期六

2023年05月05日 火曜日 吉田町公民館の会議室で実施した。

2023年05月05日 火曜 日本列島に春の気配が感じられる中、5月連休の真っ最中という時期に、お花見

2023年05月05日 星期五 15:07:50

2023年05月05日 星期六 15:50:50 第202页

2023年09月05日 星期一

2023年09月05日 星期五 上海财经大学图书馆

在宅医療・介護を考える北空知地域住民フォーラム in 沼田の開催報告

～ いずれはみんなに訪れる人生の最期 どう迎えたいですか？ どう送りたいですか？ ～

- ・日 時 令和5年10月21日（土）13:30～15:45
- ・場 所 沼田町健康福祉総合センターふれあい すこやかホール
- ・参加者 97名（沼田町68名、妹背牛町5名、秩父別町5名、北竜町3名、深川市14名、その他1名 うち一般60名、支援関係者37名）
- ・目 的 北空知地域の住民の方に在宅医療や介護、地域での支え合いについて考えてもらう地域啓発の場とする

開会挨拶する沼田町の横山町長



司会進行は沼田町保健福祉課の森田主幹

- ・事前申込者は91名でしたが、沼田町の方を中心に続々と入場され、当日の参加者は97名と当初の目標の100名をほぼ達成する参加をいただきました。
- ・今年も早くから来場された方に、「ライスパワー体操」のビデオを放映し、介護予防体操を紹介しました。ビデオを見ながら一緒に身体を動かしてくれた方もいらっしゃいました。
- ・司会進行は、開催地の沼田町保健福祉課森田主幹です。
- ・最初に、沼田町の横山町長から歓迎の開会挨拶をいただきました。



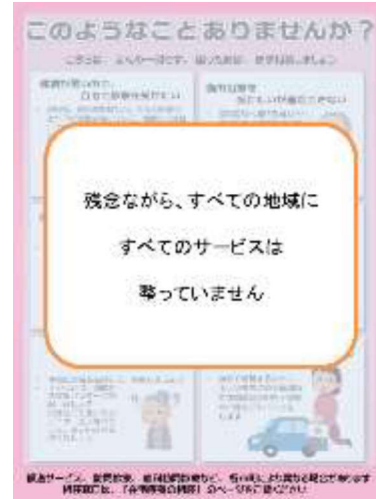
北空知の取組を紹介する村田事務局長

- ・北空知地域の在宅医療・介護の取組では、北空知地域医療介護連携支援センターの村田事務局長と深川市立病院訪問看護ステーションみのりの立花管理者のお二人からお話いただきました。
- ・村田事務局長からは「自宅で安心して暮らすために～チーム北空知の取組」と題し、北空知の医療と介護は、人や資源に限りがあり、全てのサービスを提供できるわけではないため、関係者が知恵と力を集めて連携し不足分をカバーしようとしている取り組みの紹介がありました。
- ・そして事業所同士だけでなく地域住民の助けあいや、困った時の相談先の紹介、そして緊急時の備えを普段からしていくことの大切さについて説明がありました。
- ・介護予防や健康づくり、病気や介護を必要になった時の対応など、住民の皆さんに考えてほしいこと、やってほしいことを協議会発行のパンフレット「住み慣れたまちで安心して暮らすために」を使ってお話をいただきました。



今年も開会前に介護予防体操「ライスパワー体操」を紹介





北空知地域住民フォーラムin沼田
自宅で安心して暮らすために
～訪問看護師からの事例紹介～

患者・利用者を多職
種連携で住み慣れ
た地域過ごせるよう
支援します



訪問看護の事例を
紹介する立花さん

家族に見守られながら永眠

「家に帰って来れてよかった。一緒にいれて
安心できた。お父さんにさみしい思いさせたくな
かったからよかった。お父さんありがとう。」と
手を握られた。

- 続いて、立花管理者からは、訪問看護の活動を3つの事例から紹介をいただきました。
- 1例目は、消化器の手術後に合併症で腸閉塞を患い入退院を繰り返す独居男性が、訪問介護の導入により買い物や食生活などを整えることができ、また薬の飲み忘れも少なくなって趣味の野菜作りができるようになった事例。
- 2例目は、慢性心不全で独居の90代女性が、出来るだけ家で過ごしたいという本人と家族の意向から訪問看護導入と作業療法士の介入があり、ゆっくりではあるが自分のペースで生活できるようになった後、退院後4年が経過し心臓が弱り施設入所を検討するものの、最後は在宅で看取りとなった事例。
- 3例目は、末期がんの一人暮らしの60代男性が、ケアマネ、福祉用具、訪問看護などが連携し、出来る限り自宅で生活し、腹水を抜くため訪問診療の導入があり、最期は在宅で亡くなれた方の事例で、「家に帰って来れてよかった。一緒にいれて安心できた」と家族に見守られながら永眠されたことを紹介いただきました。
- 立花さんは、人生の節目で様々な決断をしているが、人生最後の時は家族と話しができていないのでは、是非親しい家族の中で話しあって言って欲しいこと、また迷ったときは地域連携室などに相談して欲しいと話されました。



講演する Wellbe Design
篠原理事長

在宅医療・介護を考える北空知地域住民フォーラムin沼田
人生の最後まで健康的な暮らしを支える
医療と介護と保健と福祉

2023.10.21.

一般社団法人Wellbe Design 篠原 辰二



ウェルビーイングデザイン
一般社団法人 Wellbe Design

地域福祉推進を担う機関や人材を支える非営利型団体
「地域研究」「地域開発」「人材育成」の
包括的プロジェクトによる、地域福祉活動の担い手支援

- 社協（金社協、都道府県、市区町村）の各種事業のアドバイザー活動
社協計画、生活支援計画策定事業、被災者支援
- 行政（都道府県、市区町村）施策に関するアドバイザー活動
地域福祉計画、避難所基本計画、災害時要援護者・避難行動支援
- 地域福祉・民生委員・ボランティアに関する支援・調査活動
学習活動、民生委員協議会活性化支援、企業活動の支援
- 地域包括ケアの仕組みづくりに関するアドバイザー活動
地域支援事業（主に地域ケア会議、協議会、認知症対策、介護予防活動）
- 福祉専門職の養成に関する各種の活動
社会福祉士養成、ソーシャルワーク実習支援、災害時避難所チーム形成
などを支援

今年で12周年

Follow Me!!



幸福：医療と介護と保健と福祉の共通理念

日本国憲法
（幸福追求権）
第13条 すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する個人の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする。

（生存権）
第25条 すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。
第26条 国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。

well-being ウェルビーイング
人がより良く生きる目的を果すこと
～人ひとりの幸福の保障を目的とした活動
【心理的・精神的】

care ケア
医療・ケア・ヘルス・ケア
介護・ケア・ヘルス・ケア
保健・ヘルス・ケア
地域福祉・コミュニティ・ケア
【物理的・手段的】

すべて「幸福」を理念として展開されています。
「幸福」は「福祉」に言い換えることもできます。

生活と暮らしの豊かさ



互酬的な支え合い

互酬性とは老若の原則であるが、必ずしも対人性を前提としたものではなく、近所の相手は贈りを受けた相手とはかぎらない。（金沢公益法人協会）

もらったものをすぐに同等の償いでかえすことが「支え合い」の中での対等性ではないはず。今自分にできる参加や活動、他の誰かに返すことが互酬的な支え合いです。

支える側、支えられる側という二者に分けるのではなく、お互いさまの関係づくりを築くことが人徳を尊ぶことにもつながります。



災害…生活・暮らし、いのちへの影響

災害時における高齢者等への被害の集中

- 東日本大震災
南房総・館山・富津の3市で死者が10人以上の30市町村のうち、27市町村からの回答（2012年NHK調査）
最年長に占める割合1.93%
一瞬が命の死亡者2.08%（罹災者の2倍）
- 平成30年7月豪雨
愛媛県、岡山県、広島県の死者のうち、80歳以上の死者の割合→約70%（131人/190人）（愛媛県死者数248名未発表）
（うち市町村別死者数最大の高松市高松市街における70歳以上の割合→約80%（45人/56人））
- 令和元年台風19号
全国の死者のうち、65歳以上の死者の割合→約55%（55人/94人）
- 令和2年7月豪雨
全国の死者のうち、64歳以上の死者の割合→約70%（63人/80人）（うち最年長約85%（55人/65人））

令和3年5月
災害対策基本法改正
→市町村に対する避難所計画
策定の努力義務強化

近隣住民、民生委員、自治会など、地域の支え手が避難支援中に命を落とす「共助死」も発生しています。

内閣府資料に一部改題

- ・ 篠原理事長は、「専門職の連携の必要性」、「住民力も必要であること」、「災害対策には保健福祉医療の連携が必要」などについて、ポイントを抑えた詳細な説明をしていただき、憲法や漢字に込められた福祉の意味や、互いに支え合う地域福祉の重要性、災害に備えるためにも地域と専門職がそれぞれの役割を分担することなど、参加者は熱心に耳を傾けていました。
- ・ WHO（世界保健機構）や日本国憲法での健康の定義は、肉体だけでなく精神的にも社会的にも満たされていることであり、病気や障がいがあるからということだけでその人の健康がさまたげられているわけではないこと、基本的人権に含まれるものであり、生きる事だけでなく死に様でさえも公共福祉に反しない限り最大限尊重されるもの。
- ・ それを実現するためには個人の努力だけでは限界があるので、互酬的關係（お互い様）、さらには1対1の關係ではなく恩送りのような繋がりが地域の豊かさに繋がっていくこと、福祉とは医療介護福祉の専門職が支えるだけではなく住民も互酬的關係で支え合う地域づくりでもありということ、災害では高齢者や障がい者が犠牲になる事が多いことから個別避難計画を策定し備えていくことが必要。

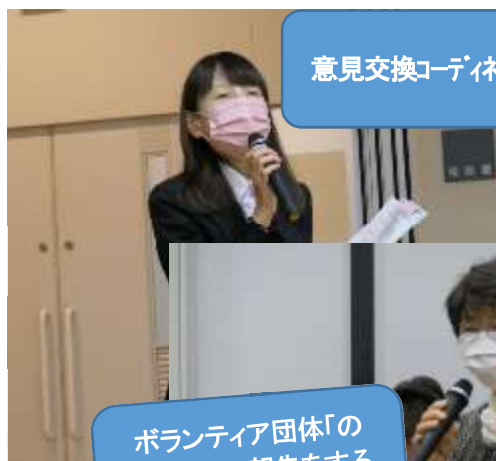
参加者は、地域福祉のあり方として困った時には専門職への相談だけでなく、普段の生活で支え合うことの必要性に対する理解を深めることができました。そうした意識を持つことで最後まで地域に見守られ「その弱っていく姿でさえもみんなに認められながら最後を迎える」という篠原理事長の言葉に今後の生活の中や取り組みをしていく上で地域づくりを考えるきっかけとなる講話でした。



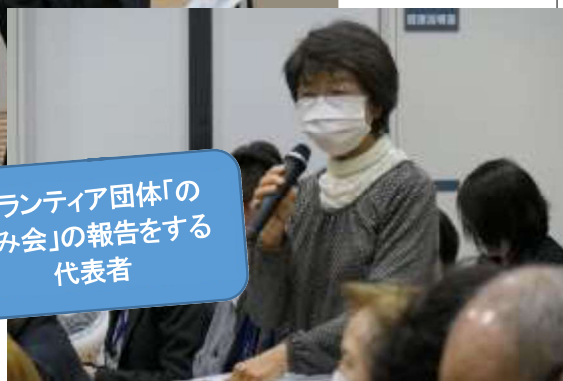
時に傾きながら、熱心に耳を傾ける参加者の皆さんでした。

人生の最後まで健康的な暮らしを支えるために





意見交換コーディネーターの鈴木さん



ボランティア団体「のぞみ会」の報告をする代表者



「食生活改善協議会」の活動を紹介する代表者



団体の活動に所感を述べる篠原理事長



閉会の挨拶は共催団体の「はあとふる沼田」代表、沼田町社会福祉協議会 松田会長

- 「支え合う地域づくり」をテーマに行われた意見交換では、沼田町の地域包括支援センターの鈴木主査がコーディネーターとなって進められました。
- 町内のボランティアサークルなど2団体から発言がありました。「のぞみサークル」では活動20年目を迎え、当初は高齢者気軽が気軽集まれる場所が無かったが、お茶会から始まりゲームや食事会を行い、参加者の笑顔とお礼を励みに頑張ってきたこと、「食生活改善協議会」は年1回食事を通してレシピ集の配布や多団体のアトラクションなどを取り入れ活動してきていることの報告がありました。
- いずれの団体もコロナ禍にあって活動や会員が減少傾向にあるが、参加者からのお礼を糧に今後も活動を続けていきたいとの発言がありました。
- 篠原理事長からは、栄養の知識は大事で継続することに意義があることや、社会的孤立により健康リスクが高くなる研究があるが、コロナ禍で社会的距離がとられていても精神的距離は縮めていくためにはこの団体のような取り組みは大変重要で是非継続していただきたいという所感がありました。

○参加者アンケートから

- 専門職でないが、暮らしを支える人になれるという言葉に感銘した。自分も何ができるか分からないが頑張ってみたい
 - 難しく考えず、まずは小さな恩送りを一人一人が行っていくことで幸せに支え合える地域が作られていくのだと学べた
 - 在宅療養するにあたって、とても心強いサポートだと思った
 - 在宅で暮らす患者さんの思いが伝わってきた
 - 亡母がお世話になっていた時より充実しているように思いました
- 防災に触れ意識ができた
お互い交流を大事にする事が大事だと痛感しました
(事例を聞いて)涙がでてきました
- これからも住民フォーラムを続けてください・参加させてもらいたいです

来年度の開催は現在未定ですが、担当部会で鋭意検討中です。

【北空知地域リハビリテーション活動支援事業】

居宅訪問



関係スタッフと居宅訪問し、自立支援に向けた環境整備、支援サービスについて助言を行う。

通所訪問



通所事業所にて集団活動や対象者への助言を行う。

地域ケア会議・担当者会議



地域課題の協議の場への参画、担当者会議にて対象者への支援について協議を行う。

介護予防事業



サロン、老人クラブ、健康教室等にて「自助」「互助」への動機を高める講話を行う。

スタッフ研修



事業所・施設等にて訓練指導員や看護・介護スタッフへリハビリ技術についての研修を行う。

○地域リハビリテーション活動支援事業 実施件数

年 度	深川市	妹背牛町	秩父別町	北竜町	沼田町	合計			
令和3年度	136	47	78	49	88	398			
令和4年度	143	60	77	77	127	484			
令和5年度	271(+128)	75(+15)	62(-15)	81(+4)	92(-35)	581(+97)			
市町名	年 度	個別 訪問	通所 訪問	地域ケア 会議	担当者 会議等	サロン・ 予防教室 老人クラブ等	研 修	その他	合計
深川市	R3年度	54	1	7	47	18	0	9	136
	R4年度	56	0	12	53	15	0	7	143
	R5年度	120	1	13	111	19	2	5	271
妹背牛町	R3年度	17	0	10	16	3	0	1	47
	R4年度	22	0	12	20	6	0	0	60
	R5年度	27	0	11	26	10	0	1	75
秩父別町	R3年度	36	0	5	31	6	0	0	78
	R4年度	33	0	5	31	6	2	0	77
	R5年度	27	0	4	24	6	1	0	62
北竜町	R3年度	12	10	5	13	5	1	3	49
	R4年度	24	8	8	23	6	5	3	77
	R5年度	23	4	9	22	7	7	9	81
沼田町	R3年度	38	0	2	37	10	0	1	88
	R4年度	54	0	1	53	16	1	2	127
	R5年度	38	0	2	37	14	1	0	92
合計	R3年度	157	11	29	144	42	1	14	398
	R4年度	189	8	38	180	49	8	12	484
	R5年度	235 (+46)	5 (-3)	39 (+1)	220 (+40)	56 (+7)	11 (+3)	15 (+3)	581 (+97)

【個別訪問】

	事業対象者等			要支援者			要介護者		
	R3年度	R4年度	R5年度	R3年度	R4年度	R5年度	R3年度	R4年度	R5年度
年度									
深川市	9	14	32	19	33	50	22	6	37
妹背牛町	0	2	5	9	9	11	9	11	11
秩父別町	11	15	6	16	8	12	4	9	9
北竜町	0	2	2	6	14	12	6	8	8
沼田町	10	4	2	14	28	22	13	21	14
合計	30	37	47	64	92	107	54	55	79

介護保険対象外



・関節痛に対するケア指導。

要支援者



・浴槽の出入りについて評価と助言。

要介護者



・訪問看護におけるリハビリの注意点を紹介。

【通所訪問】

北空知地域リハビリテーション活動支援事業

・通所利用者様のリハビリ内容やADL介助等……

**ちよっと困ったときにリハビリ職がICTきたぞらりんくで
助言を行います。**

・地域リハビリ情報も発信します。

ご利用の流れ



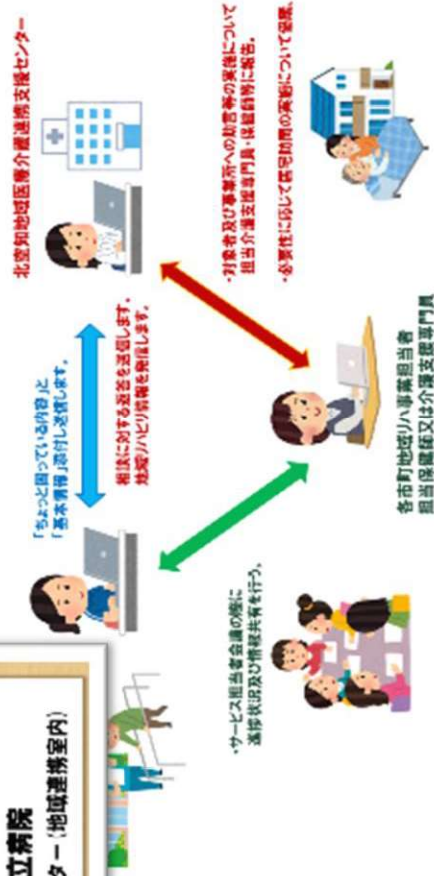
問い合わせ

☎0164-22-1101 深川市立病院

北空知地域医療介護連携支援センター（地域連携室内）

- 例えばこんなことで困ったときに…
- ☐ 術後、疼痛など症状に合った運動メニューについて。
 - ☐ 不満や不安の訴えに対する対応について。
 - ☐ 帰宅願望や休むことが多い方への対応について。
 - ☐ 転倒の危険性が高い方への能力改善について。
 - ☐ 息苦しい、疲れやすい方への効果的な運動とは。
 - ☐ 身体機能評価や認知機能の評価方法について。

訪問事業に関するICT連携（きたぞらりんく）体制について



【介護予防事業】

【深川市：ライパー会 継続参加者の2年前と比較】

- ・n＝女性10名(平均年齢71.3歳)

項目	R3年4月	R5年6月
握力右	4.1点	4.3点↑
握力左	3.8点	3.9点↑
片脚立ち	3.5点	3.9点↑
立ち上がり	3.8点	4.3点↑
歩行速度	3.6点	4.4点↑



- ・R3年から継続参加者は、全ての測定値で向上する。
- ・バランス機能と歩行速度に関する項目で大幅な改善を認められる。

【妹背牛町：わかち愛もせうし広場】

- ・n＝11女性10名男性1名(平均年齢83.8歳)

項目	R5年5月(n 13)	R6年2月(n 12)
握力右	3.3点	3.6点↑
握力左	2.7点	3.3点↑
片脚立ち	2.3点	2.3点
立ち上がり	3.4点	4.3点↑
歩行速度	3.2点	2.3点



- ・疼痛を伴う方が多いが数値改善者が増加する。
- ・毎週、運動と様々な作業活動を提供しており、参加者は飽きることが無く楽しく取り組まれる。

【スタッフ研修】

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
深川市	0	0	0	2
妹背牛町	0	0	0	0
秩父別町	0	0	2	1
北竜町	2	1	5	7
沼田町	0	0	0	1
合計	2	1	7	11



- ・沼田デイサービスにて、言語聴覚士より摂食嚥下評価から、適切な食形態を助言を行う。



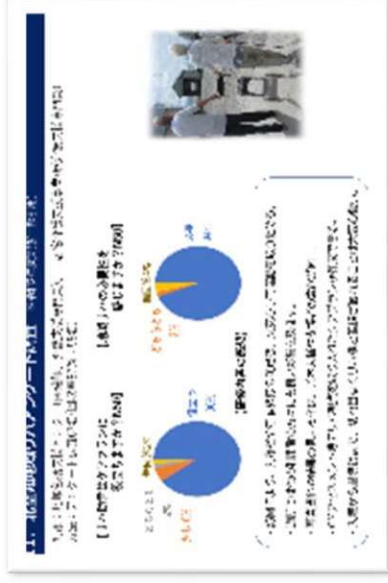
- ・北空知介護支援専門員連絡協議会スキルアップ研修会にて、作業療法士 永洞より「認知症の方への地域リハビリについて」報告。



- ・北竜特養永楽園にて、対象者に合った歩行練習について助言を行う。

○北海道地域リハビリテーション協議会研修会(令和5年9月)

- ・北空知地域リハビリテーション活動支援事業の実践報告。



○北海道新聞「脳活シート作成」へ協力

- ・北竜町地域包括支援センター、深川市立病院リハビリテーション課、北空知地域医療介護連携支援センターが監修し『脳活シート』作成し介護予防に活用する。

